

鉄鋼短期大学

1. 大学の紹介

鉄鋼短期大学は尼崎市に在り、次の4学科を設置している。鉄鋼工学科(25+25)、機械工学科(80+60)、電気工学科(100+40)、溶接構造工学科(25+25)。ただしカッコ内は定員で1年次2年次を示す。別に教養科目のため共通の教養部をもつ。学生は会社派遣と一般学生からなり、外国人も若干受入れている。両者の比率は約50:50であるが学科により多少の開きがある。詳細は入学案内によられたい、企業における専門技術者の育成を目的としている。

2. 情報処理工学コース

電気工学科は電気工学、電子工学、情報処理工学の3コースに分かれており、定員は合計で100名である。情報処理工学コースは61年度より新設されたもので、現在はまだ1年次学生だけである。鉄鋼といえどかく男性の職場とされているが、このコースは女性も入学でき歓迎されている。オペレーションズ・リサーチはこのコースの2年次の専門基礎講座となっており、来年度から開講されることになっている。

3. 鉄鋼業はOR問題の宝庫

高炉転炉などの原料配合問題(LP)、高炉の改修、主要設備の定期修理(PERT)、圧延条件、納期などを組合せた工程計画、在庫管理など、OR問題の宝庫といえよう。

四方が海である日本の、数万tの船を横付できる港のある鉄鋼所と、高々3千t級の船しか航行できない河川にたよる欧米の鉄鋼所とは格差は明白である。一方、発展途上国の砂漠のような広大な天然の材料置場と日本の狭い倉庫とを比較した場合、その使いやすさが将来問題となるのではなからうか。鉄道の貨車操車場とトラックの集配センターとの比較のように、円高対策の合理化計画とともにOR的発想の必要な所である。(在庫管理、特に現品の管理)

4. ORを使いやすい方式に

欧米の管理方式が命令型であるのに対して日本は了解型である。したがって下意が上達しやすい利点はあるがそれだけ中級あるいは下級幹部にその能力を求めることになる。品質管理がSQCからTQCへと理解しやすい方式に発展したように、ORにもそれを期待したい。鉄鋼業の技術系幹部は冶金学科出身者が多く、化学は得意だが高等数学は不得手という方が多い。それらの方々も含めて、もちろん学生自身も容易に理解できるよう平易にしたORを希望します。弁慶の七つ道具のように、利用度の高いものについて平易に使いこなせるものを求めます。難問に対する立派な解法より、どれだけそれで利益をあげたかの説明をお願いします。大型コンピュータが宝の持ち腐れにならないためにも。

(山本 昌)

滋賀大学 経済学部 管理科学科

滋賀大学経済学部は琵琶湖畔の小都市彦根にあります。彦根市は旧くからの城下町で、中心に位置する彦根城は幕末に活躍した井伊大老の居城でしたが、戦災を免れて城下町の雰囲気は今によく保存しています。経済学部はこの城の外堀に面しておりますので、研究室からはいつも天主閣を眺めることができます。ただ彦根は今冬のさなか、北陸からやってくる冷たい季節風が暗い湖面を渡り、城に激しく吹きつけています。荒涼たる冬景色

で、研究室にこもってひたすら研究に没頭しうる季節のはずですが、窓から北の方角には伊吹山が雪を頂いているのが見え、スキー愛好者には落ち着けない季節でもあります。やがて春ともなれば、城の梅や桜が咲き誇り、特に今年は「世界古城博覧会」なるアトラクションがあります。OR誌の読者の皆様のご来彦をお勧めする次第であります。長くなるので彦根の観光案内はこのくらいにしておきましょう。

このいささかのどかな伝統の町にあって、わが管理科学科は情報化時代の先鞭たるべく、学生定員40名の小所帯ながら隣接学科の経営学科、会計学科さらには経済学科と連繋して情報科学の研究と教育に励んでおります。学科構成は、電子計算機総論、情報処理論、情報組織論、産業工学、機械化会計の5講座です。滋賀大学の管理科学科は経済学部を母体にしておりますので、工学部に設置されている情報関係の学科と比較して経済・経営的色彩が濃いのが特徴です。工学部の学生同様、各種言語、アルゴリズムの習得を要請されますが、あくまでも経済・経営のバックグラウンドを前提にしており、その志向を反映して本学科のスタッフも文科系出身者と理科系出身者が半々といったところです。次に各講座のスタッフをご紹介します。

〔電子計算機総論講座〕吉井 典章教授は代数学専攻の数学者でアルゴリズムの権威です。計算センターの所長としてTSSシステムの新規導入に努力してきました。森健一助教授は昨年大阪府大の経営工学科から移籍しました。現在経営情報システムの研究に取り組んでいます。本学会会員です。

〔情報処理論講座〕森 将豪助教授は電子工学科卒の

研究者でソフトウェア工学の専門家です。最近、人工知能を導入した計算機の研究に熱心です。

〔情報組織論講座〕吉田 貞夫教授は図書館学の権威ですが、その学問的バックグラウンドをいかして、計算機による情報検索論を展開してきました。堀本三郎助教授は計量経済学出身の研究者で、本学では経営統計を研究テーマにしています。

〔産業工学講座〕吉田 稔助教授は経営学専攻で経営計画論を研究しています。本学会会員。熊沢吉起助教授は品質管理および信頼性の問題の統計学的性質の解明がテーマです。本学会会員。

〔機械化会計論講座〕清水哲雄教授は会計学専攻でコンピュータ簿記の権威です。後藤雅敏講師は会計学の専攻で情報理論と会計学の統合をテーマにしています。

以上、管理科学科の構成員を紹介してまいりましたが、一同に共通した問題は、やはり数学的素養を前提にしないで、数理科学や計算機科学の成果を学生に教えることが容易でないことです。この教育問題はいわゆる“文科系の管理科学科”に所属する教官にとって終わることのない課題であります。学会の先生方の示唆がいただければ幸いです。(吉田 稔)

会合記録

編集委員会(OR誌)

1月7日(水)(8)

表彰委員会 1月8日(木)(7)

理事会 1月12日(月)(17)

OR・JIMA合同研究発表会打ち

合せ会 1月26日(月)(8)

IAOR委員会 1月27日(火)(2)

30周年記念事業委員会

1月29日(木)(6)

第5回理事会議題

62.1.12

- 第4回理事会議事録の件
- 入退会の件
- 昭和60, 61年度会費未納者(除名対象者)の件
- 会友制度の件
- 賛助会員に関する定款ならびに細則改正の件
- 賛助会員増強活動の件
- 賛助会員強化活動のための新規事業について

8. 研究部会の新設ならびに継続の件

9. 昭和62年度秋季研究発表会の件

日時: 昭和62年10月17・18日

場所: 文教大学

特別テーマ: 福祉と老後(仮題)

10. OR/JIMA合同研究発表会打合せの件

11. 第2回連合シンポジウム収支報告の件

12. 中日信頼性シンポジウム

13. JORSJの新編集方針

14. 30周年記念事業委員会報告の件

15. 第3回四半期収支計算報告の件

16. 昭和62年度事業計画案ならびに予算案の件

入退会

(61.11.11~62.1.12)

●61年度入会(正会員)

大西 治男 筑波大学

野口岩男 昭和大学

●61年度退会(正会員)

相曾 益雄 日本アイ・ビー・エム(株)

石井 政雄 日本下水道事業団

石井 侃 セイコー電子工業(株)

梅津 正照 兵庫医科大学病院

上田 典男 日本電気情報サービス(株)

岡村健二郎 武田薬品工業(株)

小川 勝嗣 昭和シェル石油(株)

河原畑良弘 (株)奥村組

小林 久志 プリンストン大学

茂原 一洋 (株)電力中央研究所

竹内 節 日本電気フィールド・サービス(株)

立野 靖章 川崎製鉄(株)

谷口 和正 川崎製鉄(株)

田村 洋一 山口大学

都築 均 愛知県立刈谷高等学校

富永 正 豊田工業高等専門学校

中島 一雄 (株)コンピュータアプリケーションズ

中村 正躬 関西大学